

(di ōstek)

the

2014

Autumn

Vol. 23 /No.4

[ジ・オステック] 2014年10月5日発行 (年4回・季刊) 第23巻第4号 (通巻176号)

ISSN 0916-8702

[ジ・オステック]

OSTEC

OSAKA SCIENCE & TECHNOLOGY CENTER



the OSTEC 2014Autumn. Vol.23, No.4 CONTENTS

■ご挨拶

山本 三幸	1
一般財団法人 大阪科学技術センター ニューマテリアルセンター運営委員長	

■賛助会員コーナー

トスレック 株式会社	2
------------------	---

■特集コーナー

中小企業の支援に生甲斐を感じるシニア集団 ～ ATACの紹介 ～ ATAC運営委員長 梶原 孝生	4
--	---

■事業紹介

・大阪科学技術館 平成26年度夏休みイベント報告	6
・大阪科学技術館 特別展示 「(株)フジキン “(超)ちょうざめ” 水槽展示」	7
・第11回ブリヂストンこどもエコ絵画コンクール優秀作品 展示 ならびにミロコマチコさんワークショップ	8
・平成26年度「宇宙の日」作文・絵画コンテスト 大阪科学技術館賞の入選作品	8

・てくてくテクノ新聞 (Vol.20 株式会社 ケイ・オブティコム Vol.21 独立行政法人 日本原子力研究開発機構)	10
・(独)産業技術総合研究所関西センター 一般公開での「おもしろ実験ショー2014」実施報告	11
・サイエンス・メイト 夏行事報告	11
・サイエンス・ラボ(聴覚支援学校等での出前科学教室) 実施報告	12
・(一社)日本鉄鋼連盟主催 ティーチャーズスクール 「鉄に関する実技研修」実施報告	13
・ティーチャーズスクール実施報告	13
・第3回 ネイチャー・インダストリー・アワード 発表会・表彰式のお知らせ	14
・住宅産業フォーラム21のご紹介	15
・第32回(平成26年度)大阪科学賞 受賞者の決定と表彰式・記念講演のご案内	16
■インフォメーション	17

表紙解説

読書の秋を迎え、子供たちと楽しく読書する
大阪科学技術館 名誉館長のテクノくん

一般財団法人 大阪科学技術センター

ニューマテリアルセンター運営委員長 **山 本 三 幸**



ニューマテリアルセンター (NMC) は、金属系新素材の試験評価方法の確立および標準化の促進、並びにそれらに関連する研究開発を行い、その成果を発信、普及することによって産業社会の発展に貢献することを目的として、産官学の熱意、指導、協力により財団法人大阪科学技術センター (OSTEC) の附属機関として 1986 年 9 月に設立されました。

設立以降の歩みを簡単に振り返ってみますと、まず標準化については、NMC の基幹事業との位置づけの下、耐熱金属材料、金属基複合材料、形状記憶合金、金属超微粒子、超電導材料、水素吸蔵合金、等の試験評価方法に関する国内外の規格制定を進めて来ており、現在までに 96 件の JIS、38 件の ISO/IEC を制定するに到っております。一方、研究開発事業に関しては、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の水素吸蔵合金、固体高分子形燃料電池、等の国プロと呼ばれる大型研究開発案件に参画しコーディネーター役を發揮した時期を経て、現在ではサポインと呼ばれる地域の中小企業の技術力向上のための制度 (戦略的基盤技術高度化支援事業) への提案を積極的に推進し、着実な受託を得ております。

さて、我が国の金属系素材に関する技術は今や世界トップクラスとなっていると言っても過言ではありません。例えば、昨年ノーベル物理学賞受賞で話題となったヒッグス粒子の存在を実験で証明した欧州原子核研究機構 (CERN) の大型ハドロン衝突型加速器 (LHC) の超伝導磁石保持カラー用非磁性鋼のように、我が国の素材技術が無ければ実現しなかった設備も少なくありません。このような技術は、顧客である重工、自動車、機械、電気、等の製品産業の厳しい性能要求に応える弛まぬ研究開発の賜物です。

我が国の金属系素材産業の持続的発展には、このような研究開発に将来的にも注力することが重要であることは言うまでもありませんが、新興国の急激な技術成長の実態などを見ると、研究開発成果を単に素材の形で提供するのみでなく知的財産として戦略的に活用することが重要と考えております。知的財産と言えば特許を連想される方が多く、それほどに産業活動における特許の重要性は広く認識されておりますが、NMC が手掛ける標準化も知的財産の戦略的な活用の一つの形態であり得ます。すなわち、標準化は技術の義務化という戦略に対応した活用であり、特許が技術の排他化であるのと正反対の活用です。また、基本的には期限が無いこと、必要に応じて随時改訂ができること、国別の権利ではなく国際標準であれば全世界共通であること、など特許とは異なる特徴があり、高度で先進的な技術ほど大きな戦略的効果が期待できます。

NMC は 2014 年 4 月より「附属」の肩書がとれ、OSTEC の完全内部組織として新たなスタートを切っております。これを契機に標準化事業、並びに研究開発事業に益々磨きを掛ける所存ですので、金属系新素材に関する課題解決に向けご活用とご支援を宜しくお願い申し上げます。

■ わが社の使命と夢 ■

一流、二番、一人前になろう！

トスレック(株) みかさ じつお
代表取締役社長 三笠 日郎 氏

脱サラでスタート

創業のきっかけが実に奇縁であった。大学を出て京都市内の電線問屋に勤め、やり手の営業マンだった。ある日、そのころ飛ぶ鳥を落とす勢いのベンチャー企業N社(京都市)本社に飛び込んだ。いつもはめったに席につかないN社の社長に会うことができた。

「名刺だけでもいただけたらと思ひまして参りました」

「そうか、どうや、うちに営業部長で来ないか」

N社の社長は訪問してくる人で、「役立つ」と睨んだ人物を引き抜くことで定評があったが、「まさか、自分に声がかかる」とは思ってもみなかった。光栄なことだったが、逡巡した末に「今日からサラリーマンをやめて独立します」と宣言せざるを得なかった。せっかくの誘いを断ったら取引停止になることを心配しての決断だった。

独立したのは3DKのマンションの部屋で電話一つでブローカー的な仕事を始めたが、「ほとんど仕事もなく、たまにあっても他社の製品を仕入れる二次店ですから赤字状態でした」と2年ばかり続けた。そのころN社から「基板の実装品アッセンブリーをやらないか」という声がかかった。

技術が分からないと思っていたところに「リストラされた技術者」が現れた。彼らの力を得てN社から注文が入った。

大波をかぶりながら

「病気」とは、気を病むというように、悩み気を使うと病気になる。三笠社長は信じている。N社から誘いがあつたころ、務めていた職場で左遷された。このため自棄酒を浴びるよう



に飲む毎日を送っていた。そんなこともあって体調を崩し、救急車に10回以上世話になったので病院で精密検査をしてもらうと、心臓に大きな腫瘍が見つかり、手術によって一命を取りとめた。

それ以来、何事も気にせず、すぐに忘れ気持の切り替えを心がけている。そうした修練のおかげで、その後の苦境を乗り切れたという。

やがて草木もなびくように日本の製造業は中国へ工場移転を始めた。取引先のN社も突然、中国へ移転を決定したので注文はゼロに。月2億数千万円の売上が数百万円に激減した。電池メーカーの携帯用パック基板も手掛け、ピーク時230人に膨らんでいた従業員のうち130人分の仕事量にも達していた。ところが3ヵ月先にこれも中国移転のため注文がなくなった。

「130人の従業員を受け入れる人材派遣会社・三笠ヒューマンテクノを設立しました」と、苦肉の策で乗り切った。

創立40周年を飛躍台にと

社名のトスレックは一般には意味不明だが、「ラグビーをやっていたので、トス、つまりパスすることです」と説明。レックのレは

LSI（大規模集積回路）とエレクトロニクスとカンパニーをつなぎ合わせた造語である。

その名も知らぬ企業が1995年という時期にスリランカに「Toslanka」という子会社を設立、電子部品の組み立て工場をつくった。いまでこそインドやスリランカに注目が集まっているが、同社の進出はいかにも早い時期である。

「23年前、高校の先輩に連れられて初めてスリランカを訪れ、その時、出会った現地の青年（京都大学に留学）からスリランカは先の戦争で爆撃を受けたが、賠償放棄を一番先に宣言したと聞いて、その優しい思いに応えたいと下請けの分際でしたが、進出を決めました」

いまその青年はToslankaの副社長で活躍している。

2008年にはインド営業子会社「京三笠」を設立している。従業員の数は国内150名、海外250名と逆転している。売上の100%はOEM製品である。2022年の創立40周年には売上100億円を突破したいと夢を描く。



新たなる挑戦

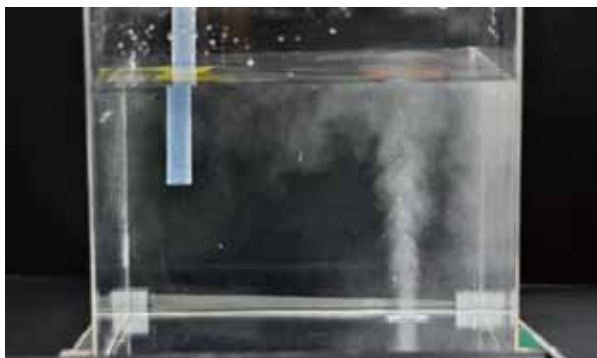
三笠社長が徒手空拳でここまでこれたのは、「品質本位」という京都商法を忠実に実行してきたからだ。トヨタ車に電装部品を納入しているが、いまだに故障はゼロだという。「大手のライバルに比べ工場は見劣りするが、品質は負けていませんよ」と本社工場を訪れた納入先の幹部連からほめられたことで自信を深めている。

いよいよ自社製品を売り出す機会が近づいている。それは独自のファインバブル（微細な泡）の発生装置で食品、医療など殺菌・洗浄できる技術を確認したからである。現在、大阪大学病院と共同で手術器具の洗浄に使用できるよう開発を急いでいる。また、大阪科学技術センターのサポートで公的資金の獲得へ向け準備も進めている。

「これが軌道に乗れば売上100億円の夢に大

きく近づきます」と三笠社長は期待をかけている。そして最大の課題は後継者問題で、次なる飛躍へ構想を練っている。

さて大見出しはトスレック憲章の一つで、「二番」とは、一番に躍り出たらいつか転ぶので、謙虚に常に高い目標を目指そうという意味を含んでいるようだ。



〈トップのプロフィール〉

- ①生年月日：1943年（昭和18年）5月13日
- ②最終学歴：立命館大学経済学部卒
- ③職歴：1967年（昭和42年）電線問屋入社、1982年（昭和57年）独立
- ④趣味：ラグビー、ゴルフ
- ⑤健康法：真心、明るく、正しく一生きる

〈会社の概要〉

- 創業年月日：昭和57（1982）年9月
- 年商（決算期）：53億円（2014年9月期、人材派遣業も含む）
- 事業内容：半導体及び電子部品並びに端末機器の販売、プリント基板の設計・製作・組み立て加工品の販売、電気機器及び制御機器の製造及び販売、規格コード及びワイヤーハーネス加工品の製造販売、人材派遣業
- 従業員数：400名（正社員約50%、2014年9月末現在）
- 所在地：〒601-8303
京都府京都市南区吉祥院西ノ庄西中町46-2
- 電話：（代）075-314-2418
- FAX：075-314-2416
- HP：<http://www.tosslec.co.jp/>
- E-mail：mikasa@tosslec.co.jp

中小企業の支援に生甲斐を感じるシニア集団 ～ ATAC の紹介 ～

ATAC 運営委員長 梶原 孝生

2007年12月20日のOSTECには沢山の郵便が届きました。それはNHKのテレビを見た人たちの感想が寄せられたものでした。

NHKのテレビと言うのは、この月の16日、NHKテレビ番組“ビジネス未来人”という番組で取り上げられた我々ATACの活動に対するものだったのです。



【放映シーンより】

ある学生さんから「定年退職者がこのような活動をしているのは感激しました」とか、ある名古屋のボランティア活動責任者から「是非一緒に仕事をしたい」とか色々な感想が寄せられ、我々の活動に更なる元気を与えてくれました。

では、そのATACとはいったいどんなものでしょうか。本号と次号(冬号)、来年の春号と3回に分けて紹介させていただきます。

ATAC 誕生の経緯と組織の基本精神

ATACは大阪科学技術センター(略してOSTEC)の事業の一つとして、企業定年退職者の技術者集団が、中小企業の技術支援をする団体です。1991年にOSTECの創立30周年記念事業の一環としてATACは産声をあげました。1991年と言えば今から23年前の事です。このとき、OSTECでは創立30年を迎え、その記念事業を何にするかの議論が始まっていました。

それ以前の1970年にOSTECは、異業種交流会であるMATE研究会(技術と市場開発研究会 Market and Technology から名付けた)を立ち上げていました。これは現在も脈々と継承されているOSTEC賛助会員の中小企業経営者の異業種交流研究会ですが、このMATE研究会を中心として次なる中小企業支援策としての記念事業を立ち上げるべく議論がなされていました。

我が国の高齢化が顕著となり、次々と定年退職者が増え始めることが予測され、それらの定年退職者の健康増進と、長年培ってきた技術知識や経験が死蔵されることのないように、これを生かして中小企業の技術支援が出来ないかと定年退職技術者を組織化しての支援策がMATE研究会のメンバーの一人、荒川守正氏(現ナード研究所相談役)から発案されました。

大企業の定年退職技術者のもつ技術知識、ノウハウ、経験などには中小企業にはない、喉から手が出るほどの貴重なものが多く含まれています。

この組織を荒川氏はATACと名づけました。すなわち高齢にして高度な技術者集団(Advanced Technologist Activation Center)ということです。同時に活動のあり方も具体的に示しました。メンバーはまずお互いに知り合う機会をつくり、お互いの特色を見出すこと。そして既存の知識・経験の伝承だけでなく、新規の仕事を創造し、起業化に協力しあうことなど。メンバーの技術者OBの顔触れも、機械、電気、化学、金属・・・と広範な分野から集まりました。さらに管理者OBや事業経営者も加わり、現在メンバーは26名です。マスコミにも度々取り上げられましたが、いつも興味をもたれるのはATACの運営費です。メンバーは入会金として50万円(退会時には内40万円は返還)、年会費12万円を支払うことになっています。これは退職者には少々厳しい条件だと思われるかもしれませんが、これから真剣に中小企業を支援するという覚悟の確認であり、また、個人で退職後に事業を興そうとすれば立ち上げ資金はそれ以上が必要になることから決意料のようなものです。現在のメンバーは、この50万円を支払った上での入会ですから、その覚悟も違って来る訳です。では実際のATACの活動はどんな状況でしょうか。

ATACのコンサル業務の対象と進め方

ATACのメンバーは企業OBの知識と経験と、その人脈の広さを十二分に生かし、中堅・中小企業の経営に貢献するべく日夜努力を重ねています。厳選されたメンバーは、机上の空論を述べるのではなく、現場に溶け込んで現場現物主義を貫き、

経営改善に努力しています。現在、ATACのメンバーは26名、多彩な技術経歴を持つ面々が揃っています。各メンバーの一覧表はATACのホームページ(<http://www.atac.ne.jp/>)を是非ご覧ください。また、このホームページでは前述のNHK「ビジネス未来人」のダイジェスト版もご覧になれます。



【ATAC 研究会風景】

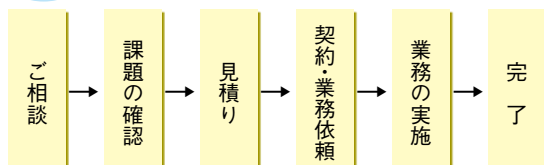
こんなことを相談してみませんか？

- 経営相談
- 生産工程の効率化、省力化、工程改善
- IT 推進支援、小規模生産管理システム構築
- コスト削減、在庫削減、不良率削減
- BCP
- 品質管理の教育
- ISO9001、ISO14001の取得支援
- JIS Q 9100 の取得支援
- 公的資金の導入支援、産学連携の支援
- シーズの橋渡し、ニーズ調査
- 商品開発の支援
- 環境問題の有効解決



【OB 活用組織全国会議】

ATAC の業務の流れ



- ・基本的には契約期間は3カ月から長くても6カ月。短期間で問題解決の道筋をつけることが原則。長くなる場合は半年を1期として、進捗状況の報告会を行い、継続すべきかどうか企業側と検討。
- ・契約終了時には報告書をまとめ、企業側トップ出席の場で報告会を開催。

ATAC はこんなこともやっています

■ 講演会・社長懇話会、ATAC ニュースの刊行
ATAC では実際の中小企業技術支援のほか、モノ造りに関する各種の講演会、また異業種交流会の流れをもつ“社長懇話会”、季刊“ATAC ニュース”の刊行などもおこなっています。

■ ATAC 研究会

最近では大企業の定年退職者も増え、各地に退職者を活用した中小企業支援機関も数多く出来ています。しかし、数年で店仕舞いをしているものも少なくありません。それは、自分たち中心で、大企業の論理をそのまま中小企業に押し付けようとして失敗に終わっているものや、数年で自分たちが飽きてきている場合、また、コンサルティングの対象が減ってきたことが原因の場合が少なくありません。これらの課題を克服するため、ATAC では月に2回、全メンバーが一堂に会してATAC 研究会を行っており、その場で全員の意思の統一、各個のコンサルティングの進め方の技術的検討会議も開いております。

■ OB 活用組織全国会議

前述の問題点を見直すために、ATAC は全国各地のこれらのコンサルティング活動機関を集めて年一回の「OB 活用組織全国会議」も開いています。

ATAC の活動範囲

色々な機会に ATAC の活動を紹介しているときに、ATAC の活動は近畿に限られているのかと聞かれます。私は、「北は北海道から南は沖縄まで」と言ってきました。しかし、最近は「今までの実績では東はカナダから西は中国まで」と答えています。カナダ・トロントのある鋼管メーカーが日本に輸出するときに、日本大手の受け入れ検査が厳しくて苦勞している、品質確保の指導をして欲しいとの希望で、はるばるトロントまで出かけて指導した例があります。また、国内のメーカーですが、中国に進出していてその工場の生産量を上げるために工場を増設したい旨で、中国の現場まで行って、結局、工程を見直して工程改善で生産量を大幅に上げて増設せずに済ませた例があります。沖縄の“もずく”の健康への良さをもっとPRするために、モズクを亜臨界処理して北海道のカップ麺メーカーの協力を得て新製品として製品化するお手伝いをした例もあります。

関西の企業で、生産現場が四国であったり島根であったり、その現場まで朝早く梅田や難波の高速バスに乗り込み出かける例もあります。神奈川の会社の5S 指導や生産工程の品質向上をお手伝いした例や、新製品開発の支援をした例もあります。なにしろ1991年から約800件にも及ぶ中小企業の支援をしてきましたので色々な例が出てきます。

次号(冬号)は実際の中小企業技術支援の実例を紹介させていただきます。

【問い合わせ先】

(一財) 大阪科学技術センター 技術振興部
ATAC 事務局
〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4
TEL : 06-6443-5323 FAX : 06-6443-5319
Email : atac@ostec.or.jp

大阪科学技術館 平成26年度夏休みイベント報告

7月19日(土)から8月31日(日)にかけて、大阪科学技術館夏休みイベントを開催し、期間中61,011名のみなさまにご来館いただき、無事終了しました。本イベントは、企業・機関等のご協力のもと実験・工作教室、お話し会、クイズラリー等を実施することにより、次世代層や一般市民へ科学技術について興味喚起を促し、身近な科学から科学が叶える夢を実感できるイベントとして展開しました。

今年度は、「この夏科学館はお魚がいっぱい!」をテーマに、館内を水族館に仕立て、さかなクンによるお話し会や「深海」また魚にとってなくてはならない「水」、さらに「夢のおさかな」イラスト募集など魚や海をテーマにしたイベントをはじめ、出展者等がとりくむ技術や普段体験できないものづくりに関する実験・工作やお話し会などを実施しました。

毎年恒例となった「テクノくん夏祭り」(7月20日)は、館内をお祭り会場に見立て、屋台風の各テーブルでさまざまな工作や体験イベントを実施し、当日は3,761名の来館者で終日賑わいました。またこの様子はテレビニュースでも取り上げられ、夏休み期間中の集客に大きな効果となりました。

本イベントの実施にあたり、ご協力賜りました関係機関の皆様にご心より御礼申し上げます。

期間中入館者：61,011名





クイズラリー参加者：2,563名






協力機関：音羽電機工業(株)、(独)海洋研究開発機構、関西原子力懇談会、日立造船(株)、(一財)道路交通情報通信システムセンター(VICS)、味の素(株)、関西職業能力開発促進センター、(一社)日本自動車連盟(JAF)大阪支部、東レ(株)、白光(株)



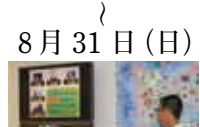
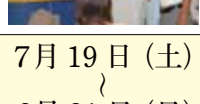
クイズラリー

ノベルティ協力：NTN(株)、音羽電機工業(株)、(独)海洋研究開発機構、関西原子力懇談会、関西電力(株)、(株)ケイ・オプティコム、(株)三社電機製作所、(独)日本原子力研究開発機構、パナソニック(株)、日立造船(株)、(株)プランテック、三菱電機(株)、(一財)道路交通情報通信システムセンター(VICS)、(株)フジキン、(一社)日本自動車連盟(JAF)大阪支部

大阪科学技術館夏休みイベント報告

<p>7月20日(日)</p> 	<p>テクノくん夏祭り 工作教室「モーターカー工作」、「おはじきでスタンドグラス」、「おさかなハット」「くるくるお魚ゲット」、「わくわく輪なげ」、「虹のおさかなシート」、実験テーブル「音のふしぎ」、体験コーナー「ヨーヨーつり」、「発電体験」、「交通安全について学ぼう」</p>	<p>8月1日(金)</p> 	<p>テクノくんの誕生日をみんなで祝いしよう</p>
<p>8月1日(金)</p> 	<p>実験教室 「電気の力で岩を砕いてみよう!」 協力：日立造船(株) 講師：日立造船(株)機械・インフラ本部 社会インフラ事業部 防災ビジネスユニット 放電破碎グループ 課長代理 阪本 良氏</p>	<p>8月2日(土)</p> 	<p>体験工作教室 「オリジナルすりガラスコップを作ろう」 協力：関西職業能力開発促進センター</p>

 <p>8月3日(日) サイエンスマジックショー 講師：神戸村野工業高等学校 教諭 北野 貴久氏</p>	 <p>8月4日(月) お話し会 「雷ってなんだろう!？」 協力：音羽電機工業(株) 講師：音羽電機工業(株) 広報室係長 工藤 幸子氏</p>
 <p>8月8日(金) お話し会と工作 「電界と磁界のふしぎ」 講師：大阪大学大学院 教授 飯田 敏行氏</p>	 <p>8月9日(土) さかなクンお話し会 共催：関西原子力懇談会</p>
 <p>8月20日(水) お話し会と工作 「深海のお話しと浮沈子工作」 協力：(独) 海洋研究開発機構 講師：(独) 海洋研究開発機構 広報部広報課 課長 廣瀬 重之氏</p>	

 <p>8月22日(金) 実験教室 「水のろ過と地球環境を考えよう」 協力：東レ(株) 講師：東レ(株) 水処理システム事業部 水処理プロセス課長 大久保賢一氏</p>	 <p>8月24日(日) 工作教室 「ウッドパーニングにチャレンジ!」 協力：白光(株)</p>
 <p>7月19日(土) 8月31日(日) 実験ショー 極低温のふしぎ、力のふしぎ、 空気のふしぎ、電気のいろいろ、 色のいろいろ、味のひみつ</p>	 <p>7月19日(土) 8月31日(日) 大阪科学技術館夏休み クイズラリー 協力：出展企業、団体各位</p>

【お問い合わせ】 (一財) 大阪科学技術センター 普及事業部 TEL：06-6443-5318

大阪科学技術館 特別展示 「(株)フジキン “超” ちょうざめ” 水槽展示」

大阪科学技術館では、平成26年4月から(株)フジキンより特別出展として、「チョウザメ」を1階インフォメーション前にて展示しております。チョウザメとは、3億年前から地球上に存在する魚で、主としてカスピ海、黒海で採取される古代魚です。その卵はキャビアとして広く世界で珍重されています。同社は、1992(平成4)年、筑波研究工場において、民間企業として、日本で初めてチョウザメの人工孵化に成功し、さらに、1998(平成10)年には、ながれ(流体)制御技術と環境制御技術を駆使し、世界で初めて、水槽での完全養殖に成功いたしました。「“超ちょうざめ”」と命名された今年4月に産まれたチョウザメたちは、元気に水槽内を泳いで、子供から大人までたくさんの見学者の目を楽しませてくれています。科学技術がかなえた夢あふれるチョウザメを是非ご覧下さい。



【お問い合わせ】 (一財) 大阪科学技術センター 普及事業部 TEL：06-6443-5318

第11回ブリヂストンこどもエコ絵画コンクール優秀作品展示 ならびにミロコマチコさんワークショップ

わたしたちの身近には、山や川があって、植物や動物がいて、みんな同じ地球に生きている仲間です。そんな身近な仲間の自然や生き物、風景などの絵を描いて、全国のみんなに伝えようという思いのもと、2003年から毎年開催されているブリヂストンこどもエコ絵画コンクール。昨年開催された第11回ブリヂストンこどもエコ絵画コンクールの優秀作品101点を、大阪科学技術館にて6月8日(日)～22日(日)の期間中特別展示いたしました。



また本展示を記念し、6月14日(土)に、本コンクールの審査員である絵本作家ミロコマチコさんのワークショップが開催され、30人の子どもたちが、ミロコマチコさんと一緒に、サインペン、折り紙、絵具などを使って、一本の木に森にいるさまざまな仲間たちを自由に描きました。



(作品は大阪科学技術館2階テクノくん広場にて展示中)

協力：株式会社ブリヂストン

【お問い合わせ】 (一財) 大阪科学技術センター 普及事業部 TEL：06-6443-5318

平成26年度「宇宙の日」作文・絵画コンテスト 大阪科学技術館賞の入選作品

9月12日の「宇宙の日」を含む約1ヶ月間の「『宇宙の日』ふれあい月間」で開催される行事の一環として行われた作文絵画コンテスト(主催：文部科学省他)において、大阪科学技術館(協力科学館)へ応募された作文・絵画について、当館のご専門の有識者の審査により大阪科学技術館賞の入選作品(最優秀賞、優秀賞、佳作)を選定した結果、以下の方々が受賞されました。

平成26年度 作文・絵画テーマ：「宇宙たんけん」

■作文の部

<小学生> ※応募総数 4点

	氏名	学校名	学年
最優秀賞	坂田 政紀	大阪市立常盤小学校	2年
優秀賞	立花 一楓	大阪市立中央小学校	2年
佳作	梅崎 瑛流	吹田市立豊津第二小学校	2年
	梶谷 明早花	大阪市立安立小学校	4年

<中学生> ※応募総数 45点

	氏名	学校名	学年
最優秀賞	坪内 優奈	茨木市立平田中学校	1年
優秀賞	小田 純之介	大阪市立平野北中学校	3年
佳作	槻木 大樹	堺市立中百舌鳥中学校	1年
	小西 律輝	堺市立中百舌鳥中学校	1年

■ 絵画の部

<小学生> ※応募総数 33点

	氏名	学校名	学年
最優秀賞	林 澄伶	智辯学園奈良カレッジ小学校	1年
優秀賞	廣木 奈菜子	八尾市立南山本小学校	5年
	松山 実夢	藤井寺市立藤井寺南小学校	4年
佳作	松田 優介	東大阪市立太平寺小学校	4年
	堂脇 日和	藤井寺市立藤井寺小学校	6年
	有田 協人	大阪市立阪南小学校	5年

<中学生> ※応募総数 52点

	氏名	学校名	学年
最優秀賞	小濱 いづみ	大阪市立西中学校	3年
優秀賞	佐藤 如月	滋賀県甲賀市立城山中学校	2年
	小田 純之介	大阪市立平野北中学校	3年
佳作	田中 真琴	大阪府立交野支援学校四条畷校	1年
	浅岡 祐羽	富田林市立第三中学校	1年
	山上 敦司	大阪市立平野北中学校	3年

上記の各部門の最優秀賞作品を全国審査へ送付し、「全国小・中学生作文絵画コンテスト最終審査委員会」で最終審査が行われ、作文の部で『日本科学未来館館長賞』に坂田政紀さん(大阪市立常盤小学校)、『国立天文台長賞』に坪内優奈さん(茨木市立平田中学校)の作品がそれぞれ選ばれました。

平成26年度 「宇宙の日」絵画コンテスト入選作品

<小学校の部>



最優秀賞：林 澄伶 (小1)



優秀賞：廣木 奈菜子 (小5)



優秀賞：松山 実夢 (小4)



佳作：松田 優介 (小4)



佳作：堂脇 日和 (小6)



佳作：有田 協人 (小5)

<中学校の部>



最優秀賞：小濱 いづみ(中3)



優秀賞：佐藤 如月(中2)



優秀賞：小田 純之介(中3)



佳作：田中 真琴(中1)



佳作：浅岡 祐羽(中1)



佳作：山上 敦司(中3)

【お問い合わせ】 (一財) 大阪科学技術センター 普及事業部 TEL：06-6443-5318

てくてくテクノ新聞 (Vol.20 株式会社 ケイ・オブティコム Vol.21 独立行政法人 日本原子力研究開発機構) (大阪科学技術館 出展者の新技術等を新聞形式でご紹介します。)

てくてくテクノ新聞

Vol.20 2014年(平成26年)4月1日発行

大阪科学技術館
〒550-0004 大阪府吹上区吹上1丁目8番4号
TEL:06(6441)0915 FAX:06(6443)5310
http://www.ostec.or.jp/

「テックくんが行く!」 出展者訪問 株式会社 ケイ・オブティコム

インターネットが速くなった!

インターネットといえば、以前は電報の速度を使っていました。今では、データが瞬時に送られてくるので、インターネットは、以前よりも速くなりました。

インターネットが速くなった!

インターネットといえば、以前は電報の速度を使っていました。今では、データが瞬時に送られてくるので、インターネットは、以前よりも速くなりました。

光ファイバー通信には、さまざまな最新技術が使われています。

光ファイバーには、屈折率の異なるコアとクラッドがあり、光がコア内を伝わるように設計されています。

光ファイバーには、屈折率の異なるコアとクラッドがあり、光がコア内を伝わるように設計されています。

インターネットが速くなった!

インターネットといえば、以前は電報の速度を使っていました。今では、データが瞬時に送られてくるので、インターネットは、以前よりも速くなりました。

光ファイバー通信には、さまざまな最新技術が使われています。

光ファイバーには、屈折率の異なるコアとクラッドがあり、光がコア内を伝わるように設計されています。

光ファイバーには、屈折率の異なるコアとクラッドがあり、光がコア内を伝わるように設計されています。

インターネットが速くなった!

インターネットといえば、以前は電報の速度を使っていました。今では、データが瞬時に送られてくるので、インターネットは、以前よりも速くなりました。

光ファイバー通信には、さまざまな最新技術が使われています。

光ファイバーには、屈折率の異なるコアとクラッドがあり、光がコア内を伝わるように設計されています。

光ファイバーには、屈折率の異なるコアとクラッドがあり、光がコア内を伝わるように設計されています。

大阪科学技術館
〒550-0004 大阪府吹上区吹上1丁目8番4号
TEL:06(6441)0915 FAX:06(6443)5310
http://www.ostec.or.jp/

「テックくんが行く!」 出展者訪問 独立行政法人 日本原子力研究開発機構

J-PRARCってどんな施設?

J-PRARCは、原子力研究開発機構が運営する、最新の原子力研究施設です。ここでは、原子力研究の最先端技術が展示されています。

J-PRARCってどんな施設?

J-PRARCは、原子力研究開発機構が運営する、最新の原子力研究施設です。ここでは、原子力研究の最先端技術が展示されています。

大きな原子力で、小さいものを調べる。見て、調べる。J-PRARC

原子力研究の最先端技術が展示されています。

大きな原子力で、小さいものを調べる。見て、調べる。J-PRARC

原子力研究の最先端技術が展示されています。

大きな原子力で、小さいものを調べる。見て、調べる。J-PRARC

原子力研究の最先端技術が展示されています。

大きな原子力で、小さいものを調べる。見て、調べる。J-PRARC

原子力研究の最先端技術が展示されています。

てくてくテクノ新聞は、次のURLからご覧いただけます。http://www.ostec.or.jp/pop/sub_contents/techno_newspaper.html

【お問い合わせ】 (一財) 大阪科学技術センター 普及事業部 TEL: 06-6443-5318

(独)産業技術総合研究所関西センター 一般公開での 「おもしろ実験ショー2014」実施報告

平成26年8月1日(金)に(独)産業技術総合研究所 関西センター尼崎支所の一般公開に合わせ、大阪科学技術館の周知活動として、同研究所にて夏休み中の子どもたちを対象に実験ショーを開催しました。

「空気の力を感じる」ことをテーマに、「マグデブルグの半球」の実験では、真空になった半球を子どもが講師と引っ張り合いをしても引き離すことができない事で空気の力の大きさを体験し、またアクリルパイプの中を真空にし、一方の口を開けると、空気が一気に流れ込み球が飛び出す“真空キャノン砲”を間近に見て、アルミ缶を通り抜ける威力に驚嘆の声が上がりました。またワイングラスを使った「共振」の実験では、音の振動でグラスが粉々に割れる様子を体感し、終了後も「ふりこの実験」を自分たちで試してみる熱心な親子連れも見受けられ、科学のふしぎさやおもしろさを終日体験いただきました。また参加の子どもたちや保護者の皆様に、大阪科学技術館で実施している夏休み実験ショーや各種イベントなどを紹介し、見学来館いただくようご案内しました。

<参加者数：192名>



【お問い合わせ】 (一財)大阪科学技術センター 普及事業部 TEL：06-6443-5318

サイエンス・メイト 夏行事報告

当財団では青少年への科学技術啓発事業の一環として、昭和52年より小学校4年生から中学校2年生を対象に、科学技術に関する各種行事を主体とした子ども科学クラブ「サイエンス・メイト」を運営しています。

体験を通して子どもたちの科学の目を養い育てることを目的に活動を行っており、今年の夏休み期間中の行事として、実験教室、野外活動、工作教室を開催しました。

実験教室「電気の力で岩を砕いてみよう！」は、火薬を一切使わず、「放電破碎工法」という特殊な方法でコンクリート片を砕くというダイナミックな実験を紹介し、コンクリート片が衝撃音と共に砕けてしまうと、大人も子どもも驚嘆の声を上げていました。

野外活動「夏キャンプ」は、ヤクルト工場の見学に始まり、野外炊さん、天体観測、テント宿泊、翌日は明石海峡大橋を臨む橋の科学館と舞子プロムナード、そして灘浜サイエンススクエアの見学と、盛りだくさんな内容を体験しました。

工作教室「クレイジーボールをつくろう！」は、磁石の反発を利用したシンプルな工作ながら、磁力により予想外の動きをみせるボールの行方に、参加者は興味深く見入っていました。

今後も学校の授業では体験できない科学の面白さと新しい発見の機会を、子どもたちに提供していきたいと考えています。

① 実験教室

実施日	内容
8月1日(金) 10:30～11:30	実験教室「電気の力で岩を砕いてみよう！」 協力：日立造船株式会社 参加者数：22名



② 野外活動

実施日	内容/見学先
8月6日(水) ～7日(木)	野外活動「サイエンス・メイト夏キャンプ」 宿泊先：しあわせの村テントキャンプ場 (兵庫県神戸市) 見学先：ヤクルト本社兵庫三木工場、 橋の科学館、舞子海上プロムナード、 灘浜サイエンススクエア 参加者数：23名 協力：(特活法人)アサヒキャンプ



③ 工作教室

実施日	内容
8月22日(金) 13:30～14:30	工作教室「クレイジーボールをつくろう！」 協力：公益社団法人大阪技術振興協会 参加者数：10名



【お問い合わせ】 (一財) 大阪科学技術センター 普及事業部 TEL：06-6443-5318

サイエンス・ラボ(聴覚支援学校等での出前科学教室) 実施報告

平成26年8月27日(水)に、大阪府立生野聴覚支援学校において中学生を対象としたサイエンス・ラボを実施しました。「電気のふしぎ」をテーマに、電気の性質や雷の放電現象など手話を交えて説明を行った後、実際にバンデグラフを用いて静電気を体験。またアルミホイルで覆ったコップ(ライデン瓶)に電気をため、グループごとに繋いだ手に電気が流れると、あちこちから歓声が起こり、電気の流れる仕組みなど身を持って学習いただきました。

次に体験工作では、ニクロム線に手回し発電機で作り出した電流を流し、熱で発泡スチロール板を切り抜く「ニクロム線カッター」作りに挑戦し、生徒たちは出来上がったカッターで思い思いの形を作り出し、オリジナル工作を完成させていました。このように学校の授業ではなかなか体験できない実験の数々に、夏休み中の生徒たちは最後まで目を輝かせて参加いただきました。

<参加者数：32名>

(後援：大阪府教育委員会、大阪府教育委員会、国立大学法人大阪教育大学)

(協賛：ロート製薬(株)、(株)モリタホールディングス、(一社)日本補聴器販売店協会近畿支部)



～今後の実施予定校～ 大阪市立聴覚特別支援学校、大阪府立堺聴覚支援学校、京都府立聾学校、奈良県立ろう学校

【お問い合わせ】 (一財) 大阪科学技術センター 普及事業部 TEL：06-6443-5318

(一社) 日本鉄鋼連盟主催 ティーチャーズスクール 「鉄に関する実技研修」 実施報告

平成 26 年 7 月 23 日 (水) 東京・科学技術館において、都内小学校の理科教職員を対象に「鉄に関する実技研修」(主催：(一社) 日本鉄鋼連盟、東京都小学校理科教育研究会) を実施しました。暮らしに身近な「鉄」を取り上げ、鉄の持つさまざまな魅力や可能性を、実験や工作を通してわかりやすく解説を行いました。

具体的には、「磁石・電磁石」の簡単な歴史から紹介し、続いて磁石・電磁石の実験に移り、電磁石の仕組みや働きについて解説を行い、さらに発展的な内容としてモーターやスピーカーの製作を行うことで、「電磁石」と「鉄」の関わりや鉄の不思議な性質等を、興味と関心を持って学習いただきました。

参加者からは、鉄の学習を通じて、生徒に理科や科学の楽しさ・不思議さを肌で感じさせる授業のヒントを得たとの感想をいただき、実習の様子をつぶさにノートやカメラに真剣に記録されていました。

<参加者数：27名>



ティーチャーズスクール実施報告

今回、東京応化科学技術振興財団 第9回「科学教育の普及・啓発」の助成を受け、小・中学校教職員を対象に、電気自動車やモーターのしくみについての研修会を実施致しました。研修会では、コイルの線径や巻き数の異なるモーターを参加者が自ら作成し、モーターの性能の違いについて学習しました。最後は、作ったモーターを搭載したカートに試乗し、ものづくりの素晴らしさを体感できたと参加者から好評を得ました。



【お問い合わせ】 (一財) 大阪科学技術センター 普及事業部 TEL：06-6443-5318

第3回 ネイチャー・インダストリー・アワード 発表会・表彰式のお知らせ

HP : <http://www.ostec-tec.info/01-2/>

ネイチャー・インダストリー・アワードは「自然に学ぶ」「自然を利用する」「自然と共生する」ことを研究している ①若手研究者の発表の機会創出 ②優れた研究を表彰することによる奨励 ③産業界と研究シーズのマッチングをめざした支援 を行い、実用化につなげることを目指しています。

日 時：平成 26 年 12 月 12 日 (金) 10 時～ 17 時 30 分 (17 時 30 分よりフリーディスカッション)
場 所：大阪科学技術センタービル 7 階、8 階 特設会場
主 催：(一財)大阪科学技術センター
共 催：日刊工業新聞社 (モノづくり日本会議)
後 援：経済産業省、文部科学省
(独)科学技術振興機構

入場無料

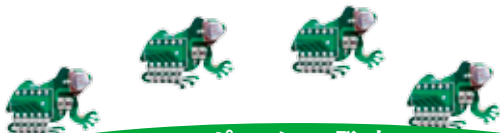
シーズ発表者とのコンタクトにより新しいビジネス発掘にご活用ください。
また、若手研究者の育成をご支援ください。
入場無料ですので、多くの皆様お誘い合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

プレゼンテーション (10:00～12:00)

当日、応募いただいた研究者の方々より、
技術シーズのプレゼンテーションを行って頂きます。

発表概要の理解にご活用ください。

場 所：7F 701号室、702号室
プレゼンテーション：約3分/人



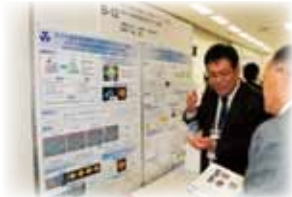
ポスター発表 (10:00～17:30)

ポスターを見ながら、シーズ発表者と
皆様と、直接意見交換ができます。

多くの発表者の方との情報交換に
ご活用ください。

場 所：8F 中・小ホール、
7F 700 号室

発表者：自然の叡智に関する若手研究者



各イベントの時間は運営の都合上変更になる場合がございますが、ご了承ください。



基調講演

(13:30～14:30)

「自然の叡智の技術化と実用化」
～ネイチャーテクノロジー応用による

家電製品の価値創造～

シャープ株式会社 健康・環境システム事業本部
要素技術開発センター ネイチャーテクノロジー推進 PTチーフ
大塚 雅生 氏

場 所：8F大ホール

今回は技術化、実用化の視点で、
産業界の方よりご講演いただきます。



表彰式

(14:30～15:30)

応募された技術シーズの中から、表彰を行います。
場 所：8F大ホール 今年の賞は誰の手に!!

<3賞>

- ・OSTEC 賞：新規性/独創性に優れた研究
- ・技術開発委員会賞：実用化の可能性が高い研究
- ・日刊工業新聞社賞：

応用分野が広く我が国の
モノづくりに寄与する研究

<特別賞>:

優れたポスター発表やプレゼンテーション



【問い合わせ先】

(一財)大阪科学技術センター 技術振興部
ネイチャー・インダストリー・アワード
事務局 秋元・東・石田・橋本
TEL: 06-6443-5320 E-mail: nature@ostec.or.jp

住宅産業フォーラム21のご紹介

～住宅産業に関わる産・学・官連携のプラットフォームによる情報交流および人材育成～

住宅産業フォーラム21は、関西を中心にした住宅産業に関わる産・学・官連携のプラットフォームであり、複雑化・多様化している経営環境のなかで、実効性のある研究情報を提供・共有、自由・率直な議論を通じて、住宅産業の将来像を構想するための極めて貴重な示唆を、設立以来十数年の長きにわたり継続的に提供してまいりました。また、本活動を通じて、住宅産業で活躍する実務者、若手の研究者の育成にも寄与してまいりました。

これまでの18年間の活動の中で、フォーラム、シンポジウムを99回開催、若手研究会、視察研修会を合わせると170回以上の開催実績を誇り、また講演いただいた講師は380名に上ります。

本年度は、住宅産業フォーラム21の最終年度とし、これまでの活動を振り返り、住宅産業の新たな方向性を見出すような活動を行っています。本フォーラムにご関心がございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。

【概要】

＜組織名称＞ 住宅産業フォーラム21（大阪科学技術センター地域開発委員会に設置）

＜創立＞平成8年4月1日

＜構成（平成26年9月現在）＞

座長：柏原士郎（大阪大学名誉教授） 副座長：高田 光雄（京都大学教授）

行政アドバイザー14名：近畿経済産業局、近畿地方整備局、（独）住宅金融支援機構、（独）都市再生機構、京都府、京都市、大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市、京都府住宅供給公社、京都市住宅供給公社、大阪府住宅供給公社、大阪市住宅供給公社法人 会員10社、個人会員11名

●フォーラム

年度ごとのテーマに基づき、会員を対象に年4回程度開催してきました。産・学・官の有識者からの講演と全体討論で構成しています。



平成26年度第1回フォーラム
「住宅脱産業化の時代に箱の産業はどう変身するか」

●視察研修会・若手研究会

会員を対象に、参加メンバーの希望に添って見学先を設定し、普通では体験しにくい現場にて話を聞き、その場で研修・討論ができる視察研修会や若手研究会を開催してきました。



平成26年度第1回視察研修会
「京町家貸切宿、京町家のシェアハウス、堀川団地」

シンポジウム

毎年のテーマに基づき、一般公開で開催してきました。本年度は、これまでの活動成果の取りまとめとして、産・学・官の有識者による総括シンポジウムを開催します。詳細が決まりましたら、ホームページ、チラシ等でご案内いたしますので、是非、ご参加ください（H27. 2/10（火）開催予定）

後継研究会設立に向けて

住宅産業フォーラム21は終了しますが、複雑化する住宅産業においては、今後さらなる産・学・官連携のプラットフォームを活用した取り組みに期待が高まっています。住宅産業フォーラム21で培った成果の蓄積、良好なコミュニティを活かし、これまでとは全く異なる視点から、住環境分野を中心とした社会システムを議論、検討する場を提供したいと考えております。詳細が決まりましたら改めて、ご案内いたします。是非ご参加いただきますようお願いいたします。

【問い合わせ先】

（一財）大阪科学技術センター 技術振興部
住宅産業フォーラム21事務局 川口
TEL：06-6443-5322 E-mail:m.kawaguchi@ostec.or.jp

第32回(平成26年度)大阪科学賞 受賞者の決定と 表彰式・記念講演のご案内

大阪府、大阪市および(一財)大阪科学技術センターでは、創造的科学技术の振興を図り、21世紀の新たな発展と明日の人類社会に貢献することを目的に昭和58年度に大阪科学賞を創設し、以来科学技术の研究・開発に貢献された若手研究者(50歳以下)の方々に本賞を授与してまいりました。

この度も、厳正なる審査の結果、受賞者2名が決定致しましたので、お知らせ致しますとともに、表彰式・記念講演をご案内申し上げます。

皆さまにはぜひご一緒に受賞者の栄誉を称え、将来有望な今後を応援いただきたいと存じますので、お差し繰りご参加いただきますようお願い申し上げます。



昨年の表彰式の様子

表彰式・記念講演

参加
無料

日時 平成26年10月29日(水) 16時30分~18時30分(開場16時)

場所 大阪科学技術センター8階大ホール(大阪市西区靱本町1-8-4)

主催 大阪府、大阪市、(一財)大阪科学技術センター

共催 (公財)千里ライフサイエンス振興財団

【受賞者】

石井 健 氏 (独)医薬基盤研究所 創薬基盤研究部 アジュバント開発プロジェクト
プロジェクトリーダー

テーマ「ワクチンアジュバントのメカニズム解明とその臨床応用」

アジュバントは有効なワクチン開発に必須の因子として知られ、今後のワクチンや免疫療法における創薬の「鍵」とされている。石井 健博士はアジュバントの基礎研究に於いて世界の第一人者であり、アジュバントの知られていなかったメカニズムを利用し新たなアジュバントの開発を行っている。今後、感染症、がん、アレルギーなどの予防、治療に対する貢献が大いに期待される。

安藤 陽一 氏(大阪大学産業科学研究所 教授)

テーマ「注目の新材料『トポロジカル絶縁体・超伝導体』:その概念と研究の進展」

中身は絶縁体だが切った表面が必ず金属になるというトポロジカル絶縁体は、その表面にエネルギー散逸のないスピン流が存在するため、超省エネ型スピントロニクス素子などへの応用が期待されている。トポロジカル絶縁体の発見に触発されてトポロジカル超伝導体の存在も予想されており、これらの新材料の研究は将来的には革新的な超省エネ型情報処理デバイスの開発につながる波及効果を持つと期待される。

参加申込

氏名、所属・役職、連絡先(電話・FAX・電子メール)をご記入の上、電子メール(kagakusyouse32@ostec.or.jp)またはFAX 06-6443-5319にお申し込み下さい。折り返し、受付の返信をさせていただきます。※受付返信が参加証になります。当日はそちらを持参下さい。

【問い合わせ先】

大阪科学賞運営委員会事務局
(一財)大阪科学技術センター
技術振興部内

事務局 東 朋子・脇坂啓司

TEL: 06-6443-5322 FAX: 06-6443-5319

大阪科学技術館 イベント情報

大阪科学技術館では、日曜・祝日を含む全日開館し皆様のご来館をお待ちしております。日曜開館時には、工作教室や実験ショーなどの参加型のイベントや冬休み期間には、クリスマススペシャルイベントや宇宙学校などを実施します。

●主なイベント

- ・12月21日(日) クリスマススペシャルイベント
電子工作教室や実験ショーなど楽しいイベントに加え、テクノくんからのプレゼントもご用意しております。
- ・12月23日(火・祝) 「JAXA 宇宙学校」
宇宙への興味を伸ばすとともに日本での宇宙開発について研究者と直接触れ合い学びます。

イベントの詳細については、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

※10月5日(日)、11月24日(月・祝)は、ビルメンテナンスのため、臨時休館となります。

(イベントスケジュールは予告なく変更になる場合がございます)

【お問い合わせ】 (一財) 大阪科学技術センター 普及事業部 TEL: 06-6443-5318

テクノくんのオリジナル人形ができました！ ～ゆるキャラグランプリ 2014 にも登場～

大阪科学技術館のキャラクター「テクノくん」のオリジナル人形が誕生しました。とても愛らしいミニ「テクノくん」を、ご来館の記念に是非お買い求めください。(大阪科学技術館 カプセルトイにて販売予定) 「テクノくん卓上カレンダー」も近日販売いたします。



●「テクノくん」人形



●「テクノくん」卓上カレンダー (写真は2014年版です)



また、ただいま開催中の「ゆるキャラグランプリ」に今年もエントリーしている「テクノくん」をみんなで応援してください。

●「ゆるキャラグランプリ」の投票はこちらから

- ・投票方法 <http://www.yurugp.jp/vote/method.html>
※今年は投票には事前登録が必要となりました。ご面倒ですが登録をお願い致します。
- ・事前登録(メールアドレス登録)のページ
<https://ssl.officialstore.jp/yurugp.jp2014/pc/members/?url=members/>
- ・登録後、投票のページ(エントリー No.375「テクノくん」)
<http://www.yurugp.jp/vote/detail.php?id=00000836>

※投票は1アドレス1日1回で、投票期間は10月20日(月)までです。

【お問い合わせ】 (一財) 大阪科学技術センター 普及事業部 TEL: 06-6443-5318

《貸会場のご案内》

豊かな緑に囲まれた抜群の環境下、バラエティに富んだ全 20 室のスペースをご用意して、多彩なコンベンションを快適にサポートします。(18 室インターネット対応)



8F 大ホール
大人数の講演会や講習会、表彰式などのビッグイベントに最適。



8F 中・小ホール
講習会・試験・展示会・ワークショップ等広い空間を最大限に活かした多目的ホール。



瀟洒な内装が好評の700号室。大切な方を招いての会議・セミナーに最適な全4室。



小人数のセミナーや研修、採用面接にぴったりの落ち着いた雰囲気、の全5室のコミュニケーション空間。



小人数での会議から100名以上の講習会まで対応可能な全5室。



専用ロビーを有する静かで明るいミーティングルーム2室。

OSTEC

一般財団法人

大阪科学技術センター

〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目8番4号

TEL(06)6443-5316 FAX(06)6443-5319

<http://www.ostec.or.jp/>

the OSTEC [ジ・オステック]

2014年10月5日 第23巻4号(通巻176号)

編集 / (一財)大阪科学技術センター 総務部

発行人 / 専務理事 西 亨

発行 / (一財)大阪科学技術センター

大阪市西区靱本町1丁目8番4号

〒550-0004

TEL. (06) 6443-5316

FAX. (06) 6443-5319

制作 / (株) ケーエスアイ

部屋名		収容人数(人)	広さ(m ²)
8F	大ホール	294(固定)	360
	中ホール	S型: 135 □型: 66	154
	小ホール	S型: 81 □型: 42	102
7F	700	S型: 76 □型: 40	146
	701	S型: 57 □型: 36	102
	702	S型: 42 □型: 36	102
	703	16〇型(固定)	51
6F	600	S型: 52 □型: 32	88
	601~3	S型: 27 □型: 24	51
	605	S型: 48 □型: 42	88
4F	401	S型: 135 □型: 60	154
	402	S型: 28 □型: 20	51
	403	S型: 60 □型: 42	88
	404	S型: 90 □型: 42	102
	405	S型: 72 □型: 44	102
1F	1F会議室	S型: 54 □型: 36	85
B1F	B101	S型: 72 □型: 44	102
	B102	S型: 60 □型: 42	88

交通のご案内

貸会場をお探しの方はお気軽に

- 平日(月~土)9時~21時まで利用可
- 日・祝日も営業(9時~17時)
- 交通の便抜群(大阪駅から約15分)
- 環境抜群(ビジネス街で眼下に靱公園の緑)
- 各種視聴覚機器を完備
- ご予約は、当月から起算して12ヶ月先まで受付



- ※新大阪から
地下鉄御堂筋線本町下車
徒歩8分
- ※大阪駅から
地下鉄四つ橋線本町下車
北へ徒歩5分
- または肥後橋下車南へ5分
うつぼ公園北角

ご予約お問合せ

〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目8番4号

(一財)大阪科学技術センター 貸会場担当

<http://www.ostec-room.com>

TEL:06-6443-5324

FAX:06-6443-5315